

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／新見 員子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

研究の方向性を明確にし科研費の申請ができるように努めたい。

2. 点検・評価

今後とも科研費申請に向けて、研究を進めていきたい。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 学校や地域との連携を密にしながら、開かれた魅力ある大学院づくりに取り組む。
- ② さまざまな機会をとらえ、大学院の概要や特徴を説明する。

2. 点検・評価

- ① さまざまな機会をとらえて大学院についての概要を説明し、広く広報を行った。
- ② 学内で行われた大学院説明会において、本コースのよさや特徴を詳細に伝えるよう努めた。また、予備校での大学院説明会に参加し、本コースを希望する学生に概要説明を行い、質疑応答には適切に対応した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 親身になり院生の進路指導や悩みの相談に応じる。
- ② 臨床心理士養成に向け、授業やスーパービジョン等を通してカウンセリングに関する基礎知識や技能を習得させる。
- ③ 教員を目指す学生に対しては、教師としての使命感や倫理感、教育愛など、学校現場での実践を伝える。

2. 点検・評価

- ① 日頃から学生の様子に目を配り信頼関係を築く中での指導や支援を心がけた。特に就職に関する相談には就職支援チームと連絡調整を行いながら丁寧な対応を行った。また、学業や生活、個人の問題での相談にも親身になって応じ学生の支援を行った。
- ② 面接指導やインテーク面接の陪席をととして、学生がカウンセリングの実際を学ぶ機会とした。
- ③ 学校現場での経験を生かした授業を心がけ実践を行った。また、レポートなどを丁寧に添削したり感想を書いたりする中で学生の意欲を喚起させるよう努めた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 学校や家庭において児童生徒が示す問題の理解と支援の在り方を研究する。
- ② 院生が行っている適応指導教室での実習における成果と課題、また、連携の在り方を検証する。

2. 点検・評価

- ① 心理・教育相談室において不登校や発達障害などのさまざまな問題をもった子どもや保護者へのインテーク面接や相談を行い、面接をととして、それぞれのケースの検証に努めた。また、カウンセリング理論や臨床心理学の文献研究を行いカウンセリング力の向上を心がけた。
- ② 適応指導教室で実習を行う学生が、不登校等の児童生徒に対しどのように関わり、どのような支援が有効であるか、適応指導教室での聞き取りや話し合いを行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 心理・教育相談室において相談業務の充実を図る。
- ② 実地教育専門部会や、教職実践演習実行委員会として積極的に大学運営に参画する。

2. 点検・評価

- ① 心理・教育相談室においてインテーク面接やカウンセリングを行い、地域から信頼される相談室に向けた運営に携わった。
また、臨床心理士を目指す学生の教育機関としての機能を充実させるために、相談者の同意の得て学生を陪席をさせた。
- ② 実地教育専門部会や教職実践演習実行委員会の会議には、全て参加し大学運営に積極的に参画した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① スクールカウンセラーとして、附属中学校の生徒や保護者、教師の支援にあたる。
- ② 適応指導教室と連携をとりながら院生の実習の場を確保するとともに適応指導教室の支援にあたる。
- ③ 実地教育専門部員として、地域の学校との連携を行う。

2. 点検・評価

- ① スクールカウンセラーとして附属中学校の生徒や保護者、教員の支援にあたった。
- ② 適応指導教室へのスーパーバイズを行うなど、連携をとりながら支援にあたった。
- ③ 教育実習生の実習校を訪問し情報交換や連携を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)